

試験日 ： 2026 年 2 月 23 日（月）
入試種別 ： 大学院入学試験(4 月入学)博士後期課程 春期試験
学部・研究科： 心理学研究科
科目名 ： 専門科目

解答又は解答例

設問Ⅰ

もともとは文化人類学や社会学において、文化が異なる共同体に長期間参入して生活を共にし、集団生活を観察するフィールドワークの方法として、参与観察、関与観察と言われていたものである。これを、精神科医であるサリヴァンが、精神療法においてもクライエントを一方向的に観察するような非関与観察は不可能であると考え、カウンセラーである自己を観察のための道具として使う関与観察しかできないと指摘し、「関与しながらの観察」という表現を用いたものである。心理面接では、カウンセラーがクライエントの話を聞き、様子を観察するだけではなく、クライエントもまたカウンセラーの言葉を聞き、その様子を観察しており、双方向のやり取りの中で理解が深められる。つまり、心理療法は、クライエントとカウンセラー、相互に影響し合う状況の中にいて、観察の対象となる人間と観察する人間とが関わり合って作り出される対人的な場なのである。

したがって、心理面接において、クライエントを理解するためには、クライエントの発言だけではなく、非言語的な側面、例えば発声のトーン、イントネーション、語りの速さなども含めて注意深く観察する必要がある、さらにカウンセラーのアンテナ感覚を大切にし、話を聞く中で、カウンセラー自身の中で何かひっかかる部分や腑に落ちない部分があれば、クライエントの不安を高めすぎない程度に、繰り返しや質問を行い、自らの体験的な関与を通して理解を深めていくことになる。

このように、カウンセラーはクライエントの話す内容や話し方に注目するとともに、その場にいるカウンセラー自身が何を感じており、またクライエントに自分がどのように見られているかにも目を向ける姿勢が重要になる。

設問Ⅱ

いくつかの研究が必要となるが、柱となる 3 本について述べる。

1 つ目は、児童養護施設を退所した成人たちの実態調査である。インタビュー法を用いて、彼らがどのような日常生活を営んでいるか、またどのような困難に向き合っているのかについて調査する。質問紙調査を実施しても構わないが、比較対象がないために、扱い方次第で仮説に影響を与える可能性がある。この調査から、彼ら独自の

困難を見極めることが必要である。

2つ目は、仮説を立てることである。仮説の背景などを、文献研究によって補い、心理的支援の可能性を探ることである。

3つ目は、仮説に応じた支援の実施である。支援が個別であろうが集団であろうが、実施可能な心理的なサポートの場を作る、もしくは利用した介入によって、彼らの日常生活の改善を図る。